

# まごひち瓦版

ライフスタイルに関する情報をもっと知りたい  
貴方にお届けする地元企業発行のかわら版です

## 日本では見られなくなる動物たち

「レッドリスト」という言葉を聞いたことがありませんか？これは絶滅のおそれがある野生生物をリスト化したもので、二〇〇六年以降毎年更新されています。レッドリストの掲載対象は、哺乳類・鳥類・両生類・爬虫類・魚類・無脊椎動物。全世界で存在している野生生物のうち、現時点で評価されているのは十五万種以上。そのうちの四万二千種以上が絶滅危惧種だそうです。さらに、絶滅の恐れに応じて九つのカテゴリーに分けられており、中でも絶滅危惧種に該当します。

**CR 近絶滅種**：野生で絶滅の危機が非常に高い種。

ゴリラ、オランウータン、シロサイ、スマトラサイ、エジプトリクガメ、シャムワニ等。

**EN 絶滅危惧種**：野生で絶滅の危機が高い種。

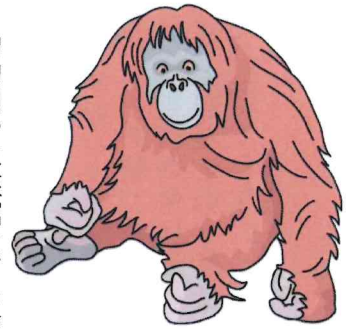
トラ、アジアゾウ、ワオキツネザル、レッサーパンダ、アオウミガメ、ラッコ、チンパンジー、マレーバク等。

**VU 危急種**：近い将来絶滅の危機が高まる可能性がある種。

ジャイアントパンダ、ホッキョクグマ、ジュゴン、カバ、ライオン等

絶滅が危惧されることになった理由は、密漁、温暖化、生息地域の開発による減少、大気・海洋汚染。

動物園や水族館に行けば出会えた可愛らしい動物も、生息地域での捕獲と輸出が禁止されており新たに動物園に迎える事ができなくなりました。例えれば現在、国内でゴリラに会える動物園は六ヶ所にラッコに至っては二ヶ所です。わずかに三頭。この三頭は同じ親から生まれた子たちで、いずれも高齢であるため国内での繁殖は不可能。いま会いに行かなければ、数年後には国内で見られる機会がなくなってしまう。



動物園や水族館などの施設は長年の間「教育・環境教育」、「種の保存」、「調査・研究」、「レクリエーション」の役割を持つものとされてきたそうです。が、今や「種の保存」の場としての比重が非常に重要視されています。

まるで『ノアの方舟』のようですね。絶滅危惧種の計画的な繁殖の場として、最低2世代に及ぶ遺伝子を管理した上で繁殖をさせており、繁殖に向けて園同士で動物の貸し借りも行われています。

絶滅の危機から計画繁殖で復活した生き物として有名なのは「コウノトリ」。兵庫県豊岡市のコウノトリの郷公園の取り組みが有名です。野生復帰計画で放鳥された豊岡市生まれのコウノトリが、奈良県大和郡山市の金魚池に佇む姿が写されニュースになったのは八年近く前でしようか？とても嬉しく感じるのには私だけではありませんよ。

近頃の動物園や水族館ではSNSやインスタグラムでも多く、定点観察カメラで飼育部屋の様子を家にいながら見ることも可能な時代。人気動物がいる動物園で長蛇の列に並びごくわずかな時間だけ、檻の向こうにい見える愛らしい仕草や、爆睡しているピクリとも動かない様子を眺めるばかりではなく、スマホやPCで動画を楽しむのもアリかなあと個人的に思っています。昔は田舎でよく見たり、捕まえたんだけど・・・動物園や水族館でよく耳にする言葉です。イシガメ、クサガメ、蟹、タガメ、オオタカ、トキ。なかなか自然界では見つけられなくなりました。初夏の風物詩である蟹も、生息場所を知っている人たちは「〇〇に行けば見られるよ」と教えてくれますが、昨今の緑地が減った住宅地の夕涼み散歩程度ではお目かきりません。

6月の中旬から、孫七の敷地内ではセキレイが巣作り中です。糞を落とされるのを嫌がる方はツバメの巣でも落とすなんて話も聞きますが、既に卵や雛がいる場合は、鳥獣保護法で野鳥の捕獲や殺傷、卵の採取や損傷は禁じられていますから、心にゆとりをもって、巣立つまで見守りましょうね。

### 電話番号のひとりごと：

先日、車の前を玉虫がフラフラと飛んでいました。あえて「フラフラ」と書きましたが、その個体だけでしょうか？玉虫全般でしょうか？風が強かったのでしょうか？飛び方がなんとも不思議だったのです。わかりやすく表現すると「虹色のクリオネ」。少し傾いた十字架のような姿勢でこれまたフラフラとゆっくりした飛行速度で飛ぶのです。飛んでいる玉虫を見ることなどきっと一生に一度あるかないかですよ、忘れられない風景でした。



玉虫



クリオネ